

令和5年度前期 東予東中学校学校評価結果と改善策

西条市立東予東中学校

【学校生活】

「楽しく学校生活を送ることができている」の項目では、肯定的な意見が生徒94%、保護者91%となっており、教職員の肯定的意見も100%となっており、ほとんどの生徒が楽しく学校生活を過ごすことができている。一方「いじめやいたずらでいやな思いをしていない」の項目では、肯定的な意見の生徒は92%（保護者83%）であるが、いやな思いをしていると回答する生徒は4%（保護者10%）となっている。生徒が保護者に学校での様子を話す中で、心配な出来事があるのではないかと考えられる。生徒同士のトラブルは教職員の目の届かない所で起こることが多いので、現在休み時間や昼休み等、廊下や教室で生徒の様子を見守っており、そのとき、嫌な思いをさせる言動を見掛けたらその場で注意や声掛けをし、生徒の様子の変化を早めに察知するようにしている。生徒たちの活動全てを見守ることは不可能ではあるが、アンケートの結果を受け止め、全教職員でもう一度生徒の様子を見守ることの徹底や、相談活動の充実を図り、生徒が安心して日々の学校生活を送っていけるようにしていきたい。

学習に関して、教員のアンケートで「教材を工夫し、生徒に分かりやすい授業の展開を行っている」についての肯定的回答が100%となっている。一人一台端末が導入され、各教科で教育効果が上がる場面でタブレットを活用するように工夫している。全国学力状況調査や定期テスト等にもタブレットを使用していることから、有用な場面で積極的に活用し、生徒にとって分かりやすい授業を心掛け、学習の内容が定着していくようにしていきたい。

「分からないところを先生や友達に相談している」では、88%の生徒が分からない問題について解決を図ろうとしている。数年前から取り組んでいる「学びあい学習」の効果が表れており、特に生徒同士での活動では意欲的に会話をする姿が見られ、学習内容の理解につながっていることが考えられる。しかしながら、教職員50%、保護者63%と生徒との大きな差がみられることから、解決を図ろうとしているが、十分な定着に至っていないとも考えられるため、学習内容が定着するまでしっかりと支援していきたい。

「学校は落ち着いた雰囲気授業ができている」では、生徒の肯定的な意見は66%（1年28%、2年84%、3年88%）となっており、1年生での改善が急務である。また、教員のアンケート結果でも、肯定的な意見が86%となっており、「落ち着いた雰囲気授業」について十分でないと感じている。授業担任が早く教室へ行き、授業の2分前着席、黙想で静かに授業に入る雰囲気づくりには取り組んでいる（教職員95%）ため、授業開始時は落ち着いていると考えられる。授業中の取組が十分でない生徒や落ち着きがない生徒への対応として、真剣に授業に取り組むことの意義を理解させ、その場での指導を徹底していく必要がある。加えて、生徒が夢中になれるような授業が展開できるように、教職員の授業改善も必要である。

保護者の81%の方が「ホームページや学校だよりをよく見ている」ということだった。ホームページは毎日更新しているので、今後もホームページや学校だよりを充実させ、様々な面から学校生活の様子を発信していきたい。

「部活動は日々充実し、自分のためになっている」の問いに、実感していると答えた生徒が85%、保護者が84%だった。今年度5月から新型コロナウイルス感染症による活動の制限がなくなり、各チームとの交流や大会への参加も増えてきている。部活動を通して専門種目の技術的なことはもちろんのこと、人としても様々な成長を後押しできるように、これからも活動していきたい。また、教員が部活動中につくことはもちろん、準備段階の練習前や下校時門を出るまでの確認を行い、安全や人間関係の様子を見守る体制も継続していきたい。

【家庭生活】

83%の保護者が、生徒たちが地域でよく挨拶をしていると感じており、生徒たちも地域の方に挨拶をしている様子がある(生徒96%)。校内での挨拶も活性化させようと生徒会が中心となって挨拶運動を行っており、こういった活動も挨拶をするきっかけになっている。今後も挨拶の意義を再確認し、活気のある学校の雰囲気をつくる意識を高めていきたい。

「家庭で学校の様子や将来の進路、生き方について話をしている」について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた生徒が73%おり、保護者のアンケートでも、「お子さんと家庭で将来の進路や生き方について話している」の質問で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」は合わせて84%だった。3年生では進路選択が近付いているため、保護者と相談する機会が多くなっていると考えられるが、1年生はまだ進路については考えることが少なく、将来について漠然としている。小学校から始まっているキャリアパスポートを活用するなど進路について折に触れて、1年生の時からキャリア教育を充実していく必要がある。

「家庭学習の一日平均時間」2時間以上が17%(昨年度21%)、1時間以上2時間未満は47%(同47%)、1時間未満は32%(同26%)、していないは4%(同6%)であった。昨年度に比べて家庭学習の時間が減少していることが分かる。また、今年度の全国学力状況調査でも、家庭学習の時間は全国や愛媛県平均を下回っていることが分かった。家庭学習減少の理由は様々考えられるが、その一つとして、ゲームやスマホの過度な使用があると思われる。「家庭でゲーム機やスマホの利用についてのルールや約束ごとを決め、守っている」の項目では、79%の生徒が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えているが、保護者の回答は64%である。先にも述べたとおり、使用過多になることで学習時間が削られて学力が下がっていったり、睡眠不足になることで体調が整わなかったりする。使用のルールを守り、トラブルを未然に防いでいくよう、保護者と連絡を取り合いながら指導していきたい。加えて、家庭での学習習慣が定着するように、教師側も宿題の質の向上等、工夫や改善が必要である。

「交通ルール(登下校中の並進をしない・ヘルメット着用等のルール)を守れている」については、生徒・保護者の98%以上が高い評価をしているが、教職員のアンケート結果でも81%と差が大きかった。下校時に自転車での並進を見掛けることが多く、事故に直結することもあるのでその場で指導をするようにしている。ヘルメットは着用できているように思う。自転車事故で最も大きな原因となるのが一時不停止や左右の未確認である。基本的な交通マナーを今一度確認するとともに、事故が起りやすい場所や、生徒が危険な横断をしているところなどを中心に見守り、事故を未然に防ぎ、交通ルールや交通マナー向上を目指していきたい。

「朝食は毎日とっている」については、5%程度が朝食をとっていないという現状である。健康は「早寝・早起き・朝ごはん」と言われるように、生活リズムを整え、健康的な生活を送るためにも、生徒全員が確実に朝ごはんを食べて登校できるように家庭に協力をお願いし、早急に改善していかなければならない。

前期のアンケート結果の反省を生かし、生徒の問題を早期に把握できるよう、教育相談タイムなどを実施し、全ての生徒との相談活動を行っていきたい。そしてアンテナを高く張り、学校生活の様子を見守りを日々継続し、必要に応じて保護者や関係機関、地域にも協力をお願いして指導していきたい。